

「裁縫ひな形」ほか関連資料（33点）

「裁縫ひな形」とは、ミニチュアを作成することにより本格的な裁縫技術を学ぶことを目的に考案されたものです。明治初期に千葉県長南町の仕立て職人が考案し、その後女子師範学校など全国に広がりました。しかし、戦時中の物資の窮乏とともに行われなくなり、戦後は消滅してしまいました。

裁縫ひな形は、その性格上、家政系大学・専門学校に学生の制作品が残されている例が多いのですが、本資料は、裁縫学校を卒業した指導者が、市井における裁縫教育のため手本として制作したもので、技術的にも高いものです。

教本とそれを実践した裁縫ひな形の双方があることにより、すでに行われなくなった指導方法が再現できる条件が整っている点は重要です。また、資料そのものについては、生地の変傷はほとんどなく、しつけ糸も残されている等、保存状態はきわめて良好です。

以上のことから、当時の裁縫技術や教育水準など得られる情報は多く、指定文化財として後世に残し伝えていく資料としての価値は高いものと判断されます。



本裁女物コート



七ッ子男袴(子ども用)



書籍(裁縫教科書巻1)